

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

## 特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP2004/015486

## 第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎とした。  
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査  
☐ PCT規則12.4にいう国際公開  
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第\_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
 第\_\_\_\_\_ ページ\*、\_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第\_\_\_\_\_ ページ\*、\_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第\_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
 第\_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 第\_\_\_\_\_ 項\*、\_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第\_\_\_\_\_ 項\*、\_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第\_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの  
 第\_\_\_\_\_ ページ/図\*、\_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第\_\_\_\_\_ ページ/図\*、\_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第\_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第\_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第\_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第\_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第\_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第\_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

## 特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP2004/015486

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-17	有
	請求の範囲	無
進歩性 (IS)	請求の範囲	有
	請求の範囲 1-17	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-17	有
	請求の範囲	無

## 2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1: JP 2-256304 A (株式会社本田電子技研) 1990. 10. 17, 全文, 全図 (ファミリーなし)

文献2: JP 2003-90903 A (株式会社秀峰) 2003. 03. 28, 全文, 全図 (ファミリーなし)

請求の範囲1-17に係る発明は、国際調査報告で提示した文献1、2により進歩性を有しない。

すなわち、文献1には、フィルムに、メッシュ状に配線されたアンテナが記載されている。

また、文献2には、メッシュ状の導電部材の形成方法が記載されている。

文献1において、適宜文献2のような何らかの形成方法を用いてメッシュを形成することは、当業者が適宜なし得たことである。

そしてその寸法をどの程度とするか、アンテナをどのような部材に適用するか等は、当業者が所望により選択し得る設計的事項に過ぎない。

特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP2004/015486

## 第Ⅶ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 1 において、「マイクロ画像要素線」あるいは「併列要素線」という語句が記載されているが、どのようなものを意味しているのか不明である。

請求の範囲 13 - 16 において、「電磁波エネルギー処理装置」と記載されているが、具体的にどのようなものを意味するものか不明である。

明細書中において、[0018]で、「画像の鮮明度合いを目視により比較した・・・本実施例 1 によるものは・・・各チャンネルにおいて鮮明な画像が得られることを確認した」とされているが、アンテナにより受信された画像情報を、何らかの処理回路を介して撮像した画像について、目視によって確認したことのみによって、そのアンテナの効果が客観的に示されるものとは認められず（通常、アンテナの性能は、受信レベル等によって数値的に評価されるものと推量される。）、本願発明が、どのような技術的根拠に基づき発明され、その結果どの程度、従来と比較して、どのような効果が得られるものであるか不明である。